



皆様、改めましてこんにちは。

YouTube をご覧の皆様にもメッセージをお届け出来ますことを、大変光栄に思っています。

大相撲で一番良い席は土俵の一番近くで、別名“砂被り席”と言われている席ですね。

講演会で一番良い席は最前列で“唾被り席”。コロナのことがなければ最前列が一番良いかなと思いますが、心なしか2つ空いてますよ。皆さん、何となく警戒されてるのかなと思いますが、私と皆さんの間はアクリル板で防止策がなされていますので、今日はマスクを取ってお話したいと思います。

今日は2021年3月7日。この頃のシーズンで、一番よく行われているのは卒業式。卒園式・卒業式。色んなお別れのシーズンですね。私の近くの中学・高校でも卒業式がありましたが、最近の卒業式で歌われる歌は私が知らない歌です。今流行（はやり）のアーティストたちが作っている歌をみんなで合唱するので、「この歌、初めてだ」というのが多かったんですが、それでも、会場から卒業生が退場する時のBGMは“蛍の光”なんですねえ。あれ鳴りますと、自動的に涙ちょちょぎれるんですね。お店が終わる時でもパチンコ屋が閉まる時でも、何でも終わる時には「ほた～るのひか～り♪」鳴ると、急に感傷的になります。お別れなんだという実感がしみじみこみ上げて来る。

しかし、この曲の原曲『Auld Lang Syne/オールド・ラング・サイン』は再会の曲です。

古い友達と再会を果たして「祝福の乾杯をやろう！今までこんなに長い間、友情が続いて来たことをお祝いしようではないか！」言わばお祝いの歌・再会の歌・交わりの歌なんですよ。

ところが長い間に、いつの間にか別れの歌に内容がすっかり入れ替わってるんですね。

実は、こういったことはよくよくあって、私たちが知っているもののルーツをずーっと辿って行くと、今私たちが覚えている認識がひっくり返るということがあるんです。その代表はバイブルではないかと思います。

色んな方に「聖書を学びに来ませんか？」とか言ったら、「あんな分厚い本…字小さい・ページ数多い・絵付いてない。私には無理だわ」と。何となく聖書って人を窮屈にさせるような。キリスト教という宗教の経典で、様々な禁止事項や掟が書いてある、堅苦しくて何か息苦しくなるような本というイメージを持っている方が案外おられるんですね。しかし皆さん、そうではないんです。

聖書の中心主題であるイエス・キリストという方のことを特に書いてある・記録してある文書が4つあって『福音書』と言います。“祝福の音信”という言葉が合体し、省略されて“福音”。福音は英語で Good News/グッド・ニュース/良い知らせ。その知らせを聞いて・理解して・受け入れた人を必ず幸せにするニュースです。

世の中で一般的にニュースと言われているのは「聞かなきゃ良かったよ」というような内容のものが何と多いことでしょう。でも、聞いて・理解して・自分自身に適応した時、必ず永久の幸せに至らせる素晴らしいメッセージ。それが福音です。

今日は聖書の福音、イエス・キリストはどういう方なのかを紹介している箇所を読みたいと思います。

というのは、私たちの人生には色々な問題がありますが、神様が提示しておられるファイナル・アンサー、「これが答えだ！」という答えはイエス・キリストなんですね。

イエス・キリストの中に、全ての問題に対する答えがあると私も信じています。

そこで、イエス・キリストはいったいどんな方？この方の正体は何者？キリストは何のために来られたのか？を語っている箇所をまず読みたいと思います。

ガラテヤ人の手紙 2 章 20 節。377 ページ。聖書に 377 ページは 2 回出て来ます。旧約と新約の合本になっているものが皆様に配られていますが、新約の 後ろの方の 上の段の右の方です。

開けにくい方は周りのクリスチャンがどうぞ手伝ってください。クリスチャンに手伝ってもらおうと思ったんだけど、そのクリスチャンが開けれないという場合はどうしたらいいのでしょうか。

日頃から読みなさい、ということですよ。

20. もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。

今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

ここで、キリストについて 3 つのポイントで紹介されているんです。

キリストにおいて現された神様ってどんな方なんだろう。イエス・キリストって、いったいどんな方なんだろう。これが 3 つのポイントで語られているので紹介したいと思います。

1. 私を愛し。

皆さんは神様ってどんな方だと思いますか？今日の話、全部忘れて結構です。

1 つだけ覚えて帰ってください。神とは あなたを愛しておられる方です。

実は、聖書が語っている神は、私たち日本人が今まで聞いて来た神とはちょっと違うんです。

この間 ある方に教えてもらったんですが、日本人も中国人も同じ漢字文化圏ですよ。だから、筆談したら通じるんじゃないかと言うんですが、いやいや。

日本語で奥様・自分の伴侶のことは妻ですね。中国語で妻は老婆。奥さんのことを老婆って言うんですよ。ご主人、家に帰って口走ってみられたら、パンチが来るんじゃないですか？

妻は中国語の別の言い方では愛人。日本社会で「私の愛人です。」しー！みたいな。不倫やん。

でも、その言い方 いいと思いませんか？関係ない相手を愛人と言うより、自分の伴侶を愛人という方が、何か聖書的のような気もする。

そして、中国語で前年と書くと 2 年前のことです。1 年前のことは去年。前年は 2 年前。

中国語で勉強と書くとスタディではなく、強制する・無理強いするということ。

だから、不用勉強了と書くと「勉強しなくていい」じゃなくて「無理しなくていいよ」という意味。

手紙はレターではなくトイレトペーパー。全日空は全日、空（から）で飛んでいる。倒産しますよ。

言葉が同じだからといって、意味も同じとは限らないんです。言葉は同じだけど、意味が 180 度違うということがあって、私たちも聖書を読むまでもなく神という言葉を使っているけど、聖書が語っている神の意味とは違うんです。どう違うのか？

私たちが使っている神は人間が作った神々のこと。世の中にはたくさん宗教があって、神々があって、日本には26万6千の神々がいるそうです。それらは全部、人間の宗教心が作った物。人が作った物。人が作った神は人を助けることは出来ません。

聖書が語っている神は人間を造られた神。自然をお造りになった方。全宇宙の第一原因者である方。あなたのルーツである方。あなたの魂の親、あなたをお造りになった作者のことを聖書は神と呼んでいます。そして、その神はあなたを愛しておられるのです。

昨年もお話したかもしれませんが、日本最大の投資家 竹田和平(たけだ わへい/1933-2016)さんが後継者にこう言いました。「私はクリスチャンでも何でも無いけど、この宇宙を造った神がいて、いつも人間を励まそう、慰めようとしているように思えてならないんだ。」「竹田先生、どうしてそう思うんですか？」

「道端の花を見てごらん。人間の目線よりも低い所に咲いている花はみんな、上を向いて咲いている。人間の目線と同じような高さに咲く、例えばヒマワリのような花は横を向いて咲く。人間の目線よりも高い所に咲く 桜のような花は下を向いて咲いている。植物には色んな形の色々な花があるけれど、まるで、人間が見やすいように咲いていると思えてならないんだ。

それは、花を造られた偉大な存在が人間に花を差し向けて、『さあ、そんなに落ち込むなよ。辛いことや嫌なことがいっぱいあるけれど、わたしはあなたを忘れていないよ。あなたのことを心に留めているよ』ということを思い起こさせるために、自然界を通して語っておられるように思うんだ。」
鋭い。

皆さん、聖書が語る神は愛です。神はあなたを愛しておられます。それは何によって知ることが出来るでしょう？あなた自身が存在していること自体が、神があなたを愛している証拠だと思います。

私は本が好きなんですね。本が。本本本。本が大好き！とうとう家に本を置く場所が無くなって、本を置くためだけにマンション借りてるんです。実に無駄な出費のように思うんですけどね。なぜ、そんなに本がたくさんあるかという好きだから。やはり、好きなものに囲まれて生活すると、幸せな気持ちになりますねえ。

それから、私の家には少なくとも10種類以上のコーヒー豆があります。今回も入手しようと考えております。それが、YouTubeなんかで「私 コーヒー好きなんです」と、つい言っちゃったんです。そしたら、ハワイに住んでいる方が「コナコーヒー送ります。」ブラジルに住んでいる人が「ブラジル送ります。」エチオピアに住んでいる人が「エチオピア送ります。」別に「送って」って言ってないんですけど気を遣って。皆さん、私はコーヒーが好きです。気遣わないでくださいね。やっぱり好きな物なので、つつい並べてしまう。そういう物に囲まれていると嬉しいなあ。家にはギターが5台あります。好きなんですねえ。

しかし、嫌いな物があります。私 好き嫌いがハッキリしてて、食べ物で苦手なのが2つあるんです。1つは牡蠣。30年近く前に食中毒起こしたんです。4人で食べて、私だけが当たりました。うえー・びゃー・うえー・びゃー言うて。上から下から同時にブワーっと。もうそれが辛くて、牡蠣の写真見るだけでウっ！ 生理的に受け付けることが出来ないような状態です。

もう1つはらっきょう。あの中途半端な味が私には許せないのです。

今から10年ほど前、同じ埼玉にある集会からお招きを受けて、家に泊めていただきました。その主婦の方が「高原さん、今日は良い食材が手に入ったのよ。楽しみにしてくださいね。」
「は～い！」…夕食で出て来たのが牡蠣のオンパレード。牡蠣スープ・牡蠣グラタン・牡蠣フライ・牡蠣ごはん・牡蠣のムニエル…。もうオイスターがずらっと！「これ、天然物なの。ある方が送ってくださってね。高原さんに食べてもらいたくて。」わちゃー！これだけは、私出来ません。
「ごめんなさい。実は私、牡蠣食べれないんですー」と言った時の、その奥様のガッカリしたお顔…。
「ええっ！聞いておけば良かった…。今日、これしか作ってません。」
そしたらご主人が「昨日の残りでも出しとき。」「昨日の残りで結構です。何ですか？」カレー。
私 辛いのが好きなんです。「カレー、大好物ですからお願いします。」
カレー出て来たら、上にらっきょう載ってたんです。それだけはね、もう死に物狂いで食べました。

でも我が家には、私の苦手な牡蠣やららっきょうはどこにも見当たりません。私が好まない物だからです。私は、好きではない物を我が家に置いておくつもりはないのです。誰だってそうだと思います。

もし神様があなたを嫌いであるなら、そもそもあなたを造っていません。
“神はご自分の栄光のために、全てのものをお造りになった”と書いてあるんですが、そもそもあなたを愛するつもりもなければ、愛してもいないというのであれば、あなたを造っていないのです。あなたが存在しているということそのものが、あなたにいて欲しい・あなたが世界に生まれて来たらどんなに良いだろうと、親が子供に夢を託すように、神はあなたを愛してお造りになったのです。

私たちが生きて行くためには多くのものが必要です。私たちは何かに依存しなければ、生きて行くことが出来ません。空気が無ければ生きて行くことが出来ない・水・食べ物・太陽・家族の愛…。しかし、人間が生きて行くのに無ければならないもの、水も空気も太陽もエネルギーも、大抵タダじゃないですか。

私を愛して造っただけじゃなく、造りっぱなしではなく、私を生かし続けている方。私が生きて行くために無くてはならないものを無料で提供し、いつも見守っている方がおられるんですね。それが神です。神はあなたを愛しておられます。その神様の愛がハッキリと明らかになるために、神は目に見えない姿ではなく、人としてこの世界に生れてくださいました。
この人となられた神がイエス・キリストです。イエス・キリストは実に深い愛の持ち主でした。

世の中で愛される人・人気者・ちやほやされている人って、どんな人でしょう？ すごい特技があって成功者、そういう人を支持したり愛したりすると思うんです。でも、キリストはこの世界に来た時、罪人を愛されたのです。寄るべ無き者を愛してくださった。この方は私たちを愛しています。それは、私たちに何か魅力があるからではなくて、神が愛だから愛してくださるんだと言うんですね。

人気者には1つ悩みがあります。芸能界でもスゴイ人気の人は皆共通の悩みがある。それは「いつまでこの人気が続くかな。」人の愛なんて、ちょっとした失言やスキャンダルで、手の平返したように去って行きますよ。変わらない愛なんて、この地上で見当たらないのではありませんか？

しかし神様は、あなたが罪を犯している最中ですら、あなたを愛することをやめることが出来ないのです。God loves you. Because God is love. 神はあなたを愛している。なぜなら 神は愛だから。人生の出来栄に全く影響を受けず、いつも、あなたを愛している方がおられるのです。

20. もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。

今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

神様はどんな方か。2. 神の御子

神の御子が、父なる神様/私たちの造り主を見事に説明してくださった。目に見えない神様はどんな方かということを確認に理解するために、神はひとり子イエス・キリストをこの世界に送ってくださったんです。

ところで、つい最近かな。作家の半藤和利（はんどう かずとし/1930-2021）さんが亡くなりました。この方は文芸春秋の編集記者をずっとなさってて、司馬遼太郎の担当。

日本の近現代史について非常に詳しい歴史家でもあり、自らたくさん著作も残し、現代史語らせたらもう造詣が深い。私の歴史観とは必ずしも同じではないのですが、とにかく物知り。

『日本のいちばん長い日』という映画、ご存知ですか？ 小説を映画化したのですが、その小説を書いたのが半藤和利さんです。

昭和20年8月14日 昼の12時～昭和20年8月15日 昼の12時の24時間は、日本で一番長い一日でした。昭和天皇と鈴木貫太郎内閣の閣僚たちが集まって、日本は降伏するのかしないのか。降伏すると決めて、玉音（ぎょくおん）放送を流すまでの24時間の間に、まあ色んなことがあったんですね。それを描き出した作品。彼は昭和の秘められたエピソードをいっぱい知っているんです。ところが、彼が書く本は全部近現代史・歴史の本ばかりなのに、1冊だけちょっと毛色が変わった本があるんですね。それは『漱石先生ぞな、もし』。夏目漱石のエピソードを100以上集めた本です。

もうすぐ1万円札が、福沢諭吉から渋沢栄一（しぶさわ えいいち/1840-1931）さんに変わりますよね。変わっても、僕はあまり関係が少ないと思います。しかし、漱石はすごく関係があったりするという。何の話や。

夏目漱石の人間味溢れるエピソード、夏目漱石は 実はこんな人だったんだよ・こんなこと考えてたんだよ・こんな癖があったんだよ・こういうことがあったんだよ、みたいなことを「何でそんなん知ってるん？」くらい詳しく書いた本。それを書いたのが半藤さん。

なぜ、そんなことを書くことが出来たのか？彼の奥さんが夏目漱石の孫なんです。なので、身内だけがアクセス出来る漱石の一級資料に、直接当たることが出来たんですね。おじいちゃんだから。女の子の孫は特に可愛い。漱石の知られざる一面について奥さんから詳しく聞くことが出来たので、他のどんな研究者も書けないような本を書くことが出来た。それは、漱石の直接の孫と繋がっていたからです。

神がどんな方かを知ろうと思ったら、神のひとり子にアクセスするのが一番詳しく知る道です。

イエス・キリストは神を正しく伝えました。

神はどんな方ですか？ 良い者にも悪い者にも等しく太陽を上らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる方。鳥の子が飢えるのを良しとせず、小さな者に目を留めることが出来る方。

イエス・キリストを通して神を知ることは、私たちの造り主が私たちを愛し・全知全能の方で・聖く正しい 絶対的主権者であることを、他のどんな手段を通すよりも正確な術なのです。

ところで皆さん。神は私たちを愛し、私たちに触れようと思って、キリストを遣わして働きかけてくださる。そんなにも人間/私たちは、神の目に特別な存在で愛されている。

とするなら、なぜ人間の世界はこんなにも乱れているのでしょうか？

神がそんなに人間を大切にしてくださっているなら、大切にされている人間は、なぜお互いに大切にしないのでしょうか？

この社会を見ると、野生のジャングルの獣の世界にも見出せないような卑怯なこと・おぞましい犯罪・人を傷つけることが横行していますよね。

もし神が最も優れた最高傑作として人間を造ったのなら、なぜ人間は、動物以下のことも仕出かしてしまうものになり果てているのでしょうか？

“私たちは神が造った時のままの状態ではなく、神と断絶状態にある罪人なのだ”と聖書は語っているんです。自分の造り主に背中を向け、“神なんかいない”という人生観で生きている人・神様との関係を切って生きている人を聖書は罪人だと言います。

ここにお花がありますが、これはちゃんと根っこがあるから美しく咲く。

生け花は根っこのルーツをプチッと切ってますね。どうなりますか？

1週間・10日くらいは青々と咲いているのですが、やがて枯れて行くのではないですか？

根っこから切れたら、しばらくは茂っていても、やがては枯れて行くのです。

同じように、人間のルーツである神から切れている人間は、80年90年・100歳120歳くらいまで生きることが出来るかもしれませんが、永遠に生きることは出来なくなりました。

いのちのルーツと切れているため、人は永久に生きられなくなってしまったのです。

それだけではない。祝福に満ちた唯一の主権者と遮られているために、私たちは神が本当の意味で意図している祝福を受け損なっているのです。

このコロナで本当に色んな不便がありますよね。今日も3密を避けるために間隔を開けて。

本来ならギュウギュウ詰めになる予定だったのですが、皆様は選抜された皆様でございまして。

中々密集が許されなくなりました。

今、私の集会に足繁く通ってくださっている男性がいるのですが、お母さんが入院しているんです。母一人子一人でね。だけどコロナ感染の疑いのために、今は面会が出来ないんですね。

もう召されるかも、亡くなるかも分からない。だとしても、“直接面会にご遠慮下さい”ということで、会いに行くことが出来ないんです。もし感染していると、抵抗力を失っている院内の患者さんたちにうつってしまったら恐ろしいことになるということで。

忌まわしいコロナウイルスという遮蔽物のために、愛し合っている親と子が引き離されている。

コロナウイルスが愛し合っている者の関係を断ち切り、遮る壁となって、会いに行くことが出来ない。

それと同じように、神と人間の間には罪という遮蔽物があって、私たちから神のところに行くことが出来ない。神は聖い正しい方なので、罪のゆえに神のところに戻ることが出来ない。神の元に戻る事が出来ない。だから、神からの祝福を受け損なっているのだと聖書は語るのです。

そこで神は、この遮蔽物を取り除く決心をなさいました。そのために、イエス・キリストをこの世界に遣わしてくださったのですね。

今私が肉において生きていけるのは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった
ご自分を与えてくださったと翻訳されているけど、“ご自分を捨ててくださった”と訳しても良いギリシア語が使われているんです。

あなたの罪を赦すために、神はイエス・キリストをこの世界に遣わしました。

イエス・キリストは私たちの罪を赦すために、私たちに代わって十字架に掛かり、神からの裁きを身代わりで引き受けてくださったと書いてあるんですね。

明治の初め、よし松という親分が滋賀県にいました。この親分は小政の養子になった人です。

清水の次郎長（しみずの じろちょう）の大政（おおまさ）・小政（こまさ）・森の石松…色んな子分がいるけど、小政の養子になった常世川（とせがわ）親分。

彼の息子さんが後にクリスチャンになって、衆議院も参議院も務め、参議院議長もやったんじゃないですかね。その方が、いよいよお父さん（常世川親分）が亡くなる前に、どうしてもイエス・キリストを信じて欲しいと思ったんです。罪を持ったまま死んだら永遠の裁きに行ってしまう。

どうしても救われて欲しい。牧師を連れて、枕元でイエス・キリストを伝えてもらいました。

「イエス様はあなたの罪を赦してくださるんですよ。この世界には大きな大きな神様がおられて、あなたを愛していますよ。だけど、神様は正しい方だから罪を裁かなければなりません。

よし松さん、あなたもヤクザ稼業長いんだから、自分が罪人だと分かるでしょ。でも神様はね、あなたの罪を赦すことにしました。だけど、ただ見逃すのではなく、あなたの罪をイエス・キリストに肩代わりさせて、キリストを十字架の上で裁くことで、あなたの罪を赦してくださったんですよ。

キリストがあなたの身代わりとなって死んでくださった。罪の償いが神に受け入れられたことを証明するために、3日目によみがえってくださったんですよ。信じますか？」「はい、信じます。」

あまりにもあっさり信じたので、牧師が「ホンマですか？」と言ったんですね。

日本では、語れども語れども中々信じてくれない人が多いので、素直に信じたら「ほんま？」とクリスチャンの方が疑い深くなっているということなんです、本当に信じたんです。

実は、彼にはこんな経験があったんです。彼が組を張っていたのは大津/滋賀県の県庁所在地でした。明治に入った時、県庁所在地を大津から彦根に移す話が出たんですが、そんなことされたら大津が寂れるというので多くの人たちが反対しました。当時の県会議員の投票は、税金をたくさん納めている人にしか投票権がないんです。一般庶民全員に投票権があったんじゃない。女性にもなかったんです。

彦根は井伊直弼（いい なおすけ/1815-1860）の城があった場所です。徳川との和解も考えて彦根に移そうと。ところが、「そんなことされたら かなわない！」大津の人たちが常世川親分の子分たちに「何とかこの話をぶっ潰してくれ！」「よーし、分かった。俺たちに任しとけ！」

300人の組員が県議会に殴り込みを掛けて、机ひっくり返す・椅子放り投げる・議長は窓から縄梯子で逃げる。それで一旦 話は流れるのですが、この乱暴狼藉に警察が出動して皆逮捕されました。

ところで、この騒ぎは親分が知らないところで、子分が勝手にやったことだったんです。

警察が常世川親分の所に来て「お前とこの子分、こんな事やったぞ。」「あ、それは、実は私が命令したことです。」

300人が長期拘留されて刑務所に入ったら、それぞれに家族がいて路頭に迷います。

子分の家族のことも考えて、ここは一つ、自分が罪を被ったら赦してもらえないか。

「子分たちは親分の命令に絶対逆らえないんです。私が悪い命令出したから、あんなことしたんです。罰するなら私を罰してください！」

それで、彼が明治の人権尊重も何も無いような時の刑務所に放り込まれて、それが原因で不治の病を得て、死ぬまでその病氣と闘うことになりました。

あの病床で、「キリストが身代わりに死んだから、あなたが赦されるんだ」と言った時、なぜ、常世川よし松親分は「はい、信じます」と言えたのか？ 自分も似たようなことをしたことがあったから。

彼はこう言ったと言われています。「私が身代わりになったのは子分が可愛いからだ。子分は私のために命を投げ捨てるような連中だ。可愛い子分のためには身代わりになる親分はいるだろう。

しかしキリストは、神に反逆し・キリストに敵対し・神なんか要らないと言って神を憎んでいる者のために、身代わりとなって死んでくださった。こんな愛はどこにもない。」

キリストの 身代わりの死である十字架の意味を理解した上で、この方を救い主として受け入れ、3 日目に死を突き破ってよみがえったキリストを信じ、クリスチャンとして召されたと言われています。

“今私が生きているのは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子を信じる信仰によるのです” とはその意味です。

私たちが生まれてから死ぬまでの間に犯す全ての罪を、キリストは全部背負って、あの十字架の上に掛かって死んでくださったのです。死んだだけでなく、墓に葬られ、3 日目によみがえって、そして「あなたがしなければならないことは、わたしが代わりにしました。」

あと必要なことは、この救いを受け入れるということなんですね。

20. もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。

今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

信仰はヘブライ語でエムナー。エムナーは発音を変えるとアーメンになります。

アーメンはエムナーとも読むことが出来るんですね。

アーメンには3 つ意味があります。①信じる ②その通り ③真実。

「この神の証しは真実です。このことは真実です。その通りです」と私たちが言うならば、それは信じているのと同じことなのです。

神はあなたのために必要なことを全てしてくださった。それに対して「はい、その通りです。ありがとうございます」と単純にこの方を受け入れるなら、皆さんは救われます。

たとえ死んでも永遠のいのちです。この世で何があっても神がエスコートします。

どこで死んでも、行き先は天国です。地上で様々なことが起こりますが、全てのことを働かせて益としてくださる方です。全能の神様があなたを導いて行ってくださるといふんですね。

昔中国にこんな話が残っています。非常な知恵者・どんな難問でも答えを出す知恵者がいて、彼をギャフンと言わせたい悪戯っ子が試すんです。

